

令和元(2019)年「宝石山正覚寺報」6月号

ご案内

お聴聞は、如来様の促しに遇いお念仏しつつ
終にお喚び声に遇わせて戴く大切な営みです。

皆様どうぞご縁におあい下さいませ。

仏壮お聴聞の会 6月2日(日)20時～。

仏教壮年会恒例となったお聴聞の会です。
皆様賑やかにご縁にお会い下さい。

滋賀組仏婦例会 6月16日(日)19時半～

月に一度、如来様のお育てに合う大切な機会
です。皆様賑やかにご参り下さい。

滋賀組定期総会 6月9日(日)9時半～

組の年頭最大の公式行事です。

滋賀組連続研修会の話題から

滋賀組の連続研修会第8回研修は、臓器移植
問題でした。この課題については、平成25年の
安居(あんご)で特別論題の発表者となった経緯
もあり、事の重大性に鑑み、当日は受講生(当院
は2名)の皆さんと一緒に住職も参加致しました。
その日は、たまたま当院の受講生お二方が話し
合いの後の発表者に指名されました。ついては、
5月度の当院「お聴聞の会」では、お二方にその
報告をして戴きました(Ref:弊誌「りびんぐらいぶ
ず」5月第3号「連研 臓器移植問題再考」)。

今回のご受講生の中には、ご家族の中で生
体肝移植をご経験になったお方がいらっしゃい
ました。不摂生の弟を助けるために姉さんがド
ナー(提供者)となられたのです。母親は弟に対
して「お前はそうまでして生きたいのか」と吐
露されました。移植には7割の肝臓を摘出する
ためドナーの姉には3割しか残らず回復は後
になり母親の苦悩は複雑だったからです。

— 昨年のノーベル文学賞受賞者カズオイシ
グロの長編小説「私を離さないで」は、将来、ド
ナープロパーが実現する時代がやってきたと
して、ドナーには人間としての魂が宿るかとい
う一大テーマの下に、(人権)保護を訴えた考
えさせられずにはおれない小説でした。

ご受講生のお一人F様は、毎回事前学習して
臨まれ、受講後は講師/主催者側への提言も含
めて受講録をお纏めになります。前回正覚寺の
第7回研修の時からそのお姿に接し受講録も頂
戴した住職は大きな感動を覚えました。

連研が近頃淋しくなると云われますが、住
職もできる限り参加して成果をお聴聞の会で発
表戴くようにすれば、当院の「お聴聞の会」自体
が活性化するように思われました。住職はその
様子を組長報告し、連研主催側には手抜き運営
を懸念されることのないよう姿勢を新たにして
戴きたい旨お願いしたことであります。

住職は、こうした一連の実態を宗門中枢部の
僧侶養成部に足を運んで報告し、背景にある一
層大きな課題に焦点を当てて話しあっておりま
す。布教使育成制度三コースを一本化する方策
は、実業界で生涯の大半を過ごし晩年に布教使
を目指される意欲ある方々に布教使への道を
閉ざす虞れはないのか。布教使門戸を広く開い
ておくことは、末寺を支える住職(多くは住職が布
教使になる)の意識を下支えする意義があるの
ではないかということです。「お経を読んでおり
さえすれば住職の勤めが全うできるとは決して
云えない」とは、今月度お聴聞の会のやりと
りで確認された課題だったからです。合掌。